

信越化学工業株式会社

2020年3月期 第2四半期 決算説明電話会議要旨

日時	2019年10月25日(金) 16:00 - 17:00
開催場所	信越化学工業(株)
会社側出席者	・代表取締役 社長 齊藤 恭彦 ・専務取締役 半導体事業担当 轟 正彦 ・常務取締役 広報担当 秋本 俊哉 ・取締役 経理部長 笠原 俊幸 ・広報部長 足立 幸仁
参考資料	2020年3月期 第2四半期決算短信 2020年3月期 第2四半期決算説明資料

* このメモは電話会議でお話した内容をまとめたものです。

【挨拶、決算概要説明 (社長 齊藤恭彦)】

- 当第2四半期の連結売上高は 7,865 億円 (前年同期比 1%減)、
営業利益は 2,105 億円 (同 1%増)、経常利益は 2,182 億円 (同 1%増)、
純利益は 1,650 億円 (同 4%増)
ROIC、ROE は前期とほぼ同じ水準。
- 営業利益の YoY (7-9月比) の差異は、主に塩ビ・化成品における販売価格の軟化、
光ファイバー用プリフォームの売上減少による。QoQ (4-6月比) は半導体シリコン
が減少、そのほかのセグメントは同水準を維持。
- 中間配当は 10 円増配の 110 円。
- 今期通期の業績予想および配当予想は、7月発表の予想を据え置き。(利益) 予想に対
する上期の進捗率は 52%。予想値達成のために計画の確実な実行に取り組む。
(今期通期の連結売上高は 1 兆 5,500 億円、営業利益は 4,050 億円、
経常利益は 4,180 億円、当期純利益は 3,140 億円、
年間配当金は、前期より 20 円増配の 1 株当たり 220 円を予想。)

【各セグメント概要説明 (広報部長 足立幸仁)】

- 塩ビ・化成品事業
【売上高 2,531 億円 (前年同期比 3%減)、営業利益 517 億円 (同 13%減)】
- 市況の影響を受けた地域もあったが、米国、欧州、日本の 3 拠点とも出荷は堅調。
- シリコン事業
【売上高 1,147 億円 (前年同期比 1%増)、営業利益 311 億円 (同 7%増)】
- 汎用製品は価格下落の影響を受けたが、機能製品を中心に出荷は堅調。

➤ 機能性化学品事業

【売上高 582 億円（前年同期比 3%減）、営業利益 138 億円（同 3%増）】

- セルロース事業は、建材向けが一部地域で振るわなかったが、医薬用製品が堅調に推移。
- フェロモンやポバール製品も堅調な出荷。

➤ 半導体シリコン事業

【売上高 1,965 億円（前年同期比 5%増）、営業利益 745 億円（同 12%増）】

- 半導体デバイス市場に軟化の動きが見られたが、出荷水準の維持に努めた。

➤ 電子・機能材料事業

【売上高 1,114 億円（前年同期比 3%減）、営業利益 333 億円（同 2%減）】

- 希土類磁石は、自動車向けは堅調も、産業機器向けや HDD 向けが振るわず。
- フォトレジストは、ArF レジストが好調に推移。
- マスクブランクスは、先端品を中心に販売増。
- 光ファイバー用プリフォームは、市況悪化により厳しい状況。

➤ 加工・商事・技術サービス事業

【売上高 523 億円（前年同期比 3%減）、営業利益 72 億円（同 13%増）】

- 信越ポリマー社の半導体ウエハー関連容器が、半導体関連市場の投資の減速の影響を受けた。

[決算および予想の補足説明]

- 上半期の設備投資は 1,169 億円（前年同期比 192 億円増）。塩ビ・化成品はシンテックの塩ビの増設が主体で 386 億円（同 96 億円増）、電子機能材料は 201 億円（同 81 億円増）。減価償却は、653 億円（同 35 億円増）で、塩ビ・化成品、シリコンで増加。
- 今期（年間）の設備投資額は、期初予想より少ない 2,700 億円、減価償却は、投資の減少のほか稼働時期のずれ込みなどで、1Q 決算時公表の予想より少ない 1,400 億円の見込み。
- 期中の平均為替レートは、海外子会社の決算期での 1-6 月の平均が US\$ で 110 円 10 銭（1 年前に対して円安）、国内会社の決算期での 4-9 月の平均は 108 円 60 銭（1 年前に対して円高）。
- 今期業績予想の前提となる為替レートは、10 月以降 1US\$ = 108 円、1€ = 122 円。
- 経常利益の為替感応度は、US\$ で 27 億円（国内会社の輸出入で 17 億円、海外子会社の換算で 10 億円）、€ で 3 億円。

【質疑応答】

〈塩ビ・化成品〉

Q	塩ビの市況動向について
A	<p>・北米は10月に値上げを打ち出しましたが、通りませんでした。今年を振り返ると値動きは少なく、市場は安定しています。来年に向けて悲観はしていません。</p> <p>・海外は、過去と比べて値動きの範囲が狭まってきており、2017年以降の推移をみても上下の幅が100\$くらいになっています。そういう意味で比較的安定していると思います。市況は自然現象ではなく、誰かが下げるから下がると考えています。現況底値と見ており、さらに下げる地合いはないとみています。</p>
Q	シンテックの7-9月の状況について
A	シンテックの7-9月は4-6月に比べて、(エチレンが上がっていることなどから)収益は若干落ちています。また昨年の3Q(7-9月)は好業績であり、それに比べて落ちています。
Q	シンテックのエチレンプラントの稼働時期について
A	先月、エタンを投入してスタートアップしましたが、問題が発生しました。12月中の立ち上げを目指し、今その手直しに鋭意取り組んでいます。
Q	苛性ソーダの市況の見通しについて
A	苛性ソーダの価格は底打ちしており、反転の方向にあります。当社はその動きを後押ししていきます。
Q	苛性ソーダの内外価格差(日本とアジア)について
A	確かに価格差はあります。これまでも日本の市況は必ずしも国際市況に連動してきませんでした(国際市況よりも相当安い時期もあった)。とはいえ、お客様は海外市況にも注目していますので、多少の調整は出てくると思いますが、大きく変わることはないと思います。

〈シリコーン〉

Q	増収減益の理由、3Q以降の見通しについて
A	<ul style="list-style-type: none">・数量が伸びて売上は増えましたが、利益は汎用品市況下落の影響を受けました。汎用品の市況は、下げ止まったと見ています。・3Q以降は数量を維持しつつ、製品構成をより高度なものに変えていきます。機能品の引き合いは引き続き堅調で、より多く、より広く売っていくべく取り組んでいきます。
Q	他社と比べて、売上利益が高い水準で維持できている理由について
A	<ul style="list-style-type: none">・製品構成の違いと思います。

〈半導体シリコン〉

Q	マーケットの状況について
A	<ul style="list-style-type: none">・7-9月期のウェハー市場全体の出荷数量は、4-6月期比で微減、前年同期比で約1割減となりました。口径別では、150mm以下、200mm、300mmの順で減少しています。・デバイス向けの動向ですが、この7-9月期は、エピウエハー（ロジック、マイコンなどの用途）の出荷量が過去最高でした。先端ロジック系を中心に需要が拡大しており、来年に向けて期待できると思います。一方、メモリーデバイスの出荷数量は今年の3月頃から反転しています。DRAMが数量ベースで過去最高になり、NANDは足元で回復してきており、来年以降に期待したいと思います。 <p>A</p> <ul style="list-style-type: none">・ウェハーの在庫については、品種、口径、またお客様によりかなり差があります。小口径になるほど、お客様の在庫レベルは健全になっており、ほぼ標準値に戻ったというお客様も増えてきています。今後の動向はデバイス需要の拡大進捗とウェハー在庫の消化に左右されます。また特徴的なこととして、お客様で在庫水準を見直す（増やす）動きも出てきており、在庫保有政策の変化にも注目すべきと考えます。・今後の需要動向ですが、世界全体の景気に減速感がみられることや、貿易問題が続いていることなど、正直見通せない状況です。一方、データセンター向け需要の回復、5G関係の始動、自動車の電装化やIoT関連の拡大など、将来に向けて明るい材料も見え始めています。

Q	業績について
A	・7-9月の利益が4-6月に対し減少した要因は、販売数量減、為替の影響、償却負担増、修繕費増などが挙げられます。また、200mm以下で品種構成が変動したこともあります。
Q	価格の動向、長期契約（LTA）について
A	・価格については、LTAを遵守していただいています。当社の場合、300mmのLTA比率は高いので、スポット価格の変動にはあまり引きずられません。またスポットマーケットにおいても価格を下げて数量を取りに行くようなことはしておりません。
Q	設備投資について
A	・設備投資は、ユーザーとの契約に基づき、そのユーザーへの出荷を確実なものにするために行っています。

〈電子・機能材料〉

Q	レジスト、マスク blanks の状況について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・レジスト、マスク blanks とともに先端品は堅調です。 ・マスク blanks は部分的な調整はありましたが、他の製品で補うことが出来ました。 ・EUV用レジストは、日韓の問題にしっかり対応し、堅調に伸ばすことができました。 ・日韓問題に絡んで、お客様からある程度前倒しの需要が発生しましたが、大きな影響はなく、今は落ち着いています。

〈全社〉

Q	設備投資額の見通しを引き下げた理由について
A	・主な変更部門はシリコーンと半導体シリコンです。シリコーンは、工事の遅れによるものです。半導体シリコンは、無理のない工期とし、来期にずれ込んだものがあるためです。
Q	減価償却費の見通しを引き下げた理由について
A	・投資額の減少と、稼働時期のずれ込みによるものです。半導体シリコンにおいて設備は取得しましたが、稼働を若干遅らせている部分があります。また、シンテックのエチレンプラントが、当初予定より稼働時期が後ろ倒しとなっていることも影響しています。

Q	建設仮勘定の内訳について
A	・塩ビ・化成品事業が約 2,000 億円、半導体シリコンが約 300 億円、電子・機能材料が約 300 億円です。残りの約 500 億円のうち、大きなものはシリコンです。